

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		博士課程リーディングプログラムの成果を継承する取組を進めたこと、「知のキュレーター」育成に向けた卓越大学院プログラムの申請準備を進め、大阪大学共創機構の推進する共創知教育として認められたこと等が評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		産学連携研究の推進に向けた取組の成果として企業等からの受託研究受入金額が顕著に増加したこと、また前年度知的財産として承認された防災見守りに関する「未来共生災害救援マップ」を活用し、企業連携組織と災害時協力に関する協定を締結したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		未来共創センターが中心となり、大阪府茨木市との協定及び一般財団法人全国自治会活動支援ネットなど(5件)とオムニサイト協定を結ぶなど、大学と社会の「結節点」の構築を行った点が評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		部局内の経費および総長裁量経費により、留学に向けた経済的支援を行い、留学する学生数が大幅に増やし、大学院生では前年度比4倍以上に上昇させていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)について、英語力向上セミナー「TOEIC対策講座」を実施するなど、学部生の語学力向上に意欲的に取り組むことで、実績を向上させたことが評価できる。

また、日本人学生に占める留学経験者の割合(大学院)では、短期の海外研究交流支援事業を実施するなど、留学経験者数の増加に意欲的に取り組むことで、実績を向上させたことが高く評価できる。